

令和7年度 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（西部地区） 議事要旨

日 時：令和7年12月16日（火）14時30分～16時

場 所：西部総合事務所3号館2階 34会議室

1 議事

（1）サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出と今後の対応方針（鳥取県河川課）

○各海岸のサンドリサイクル実績および短長期の汀線変化傾向についての考察が報告された。

＜主な意見＞

○（鳥取大学 黒岩教授）

- ・最大有義波高の経年変化について、2010年の波高が極端に小さいが、データに欠測がある可能性があるので確認が必要。欠測のデータが選ばれているのなら過小評価となっている。
- ・サンドリサイクルで土砂投入量が減少傾向となっているところは、予算によるものか安定傾向によるものかなど減少理由をコメントしておいてほしい。
- ・富益工区と同様に和田・大篠津工区も養浜材は大粒径の砂を試す必要があると思う。マリーナの細かい砂はすぐ抜けてしまうので、日野川河口の大粒径の砂による養浜を、管理上の問題があるかもしれないが検討してほしい。
- ・西部地区は台風による被害が大きいのが特徴。今後どう対応していくかが課題であり、和田・大篠津工区については非常に危惧している。関係機関で連携した対応が必要である。

（2）各管理者からの報告と主な意見

■日野川河川事務所のとりくみ（国土交通省日野川河川事務所）

富益工区における人工リーフ整備とサンドリサイクルの実施状況及び周辺の汀線変化の状況が報告された。併せて日野川での土砂管理対策及びモニタリングの実施状況が報告された。

また、一の沢砂防堰堤の掘削仮置き土の試験施工結果についても報告があり、土砂の一部は滞留するものの、時間をかけて海岸まで流れたのを確認できたとの報告があった。

■境港公共マリーナの堆砂対策について（境港管理組合）

港内への堆砂土量の推移及び令和13年まで実施予定のマリーナ拡張整備の計画及び実施状況が報告された。

南防波堤整備後は南防波堤の根元に溜まる砂を浚渫することでコスト削減が期待でき、整備後は陸側からの浚渫が予定されているとの報告があった。

■海岸保全基本計画の変更について（鳥取県河川課）

気候変動を踏まえた海岸保全基本計画の変更について、昨年度の技術検討委員会の検討結果、今年度からの検討委員会における要施設整備箇所の選定と整備方針、今後の海岸保全対策の検討状況について報告された。

2100年には海面上昇や台風、波浪の影響から砂浜が10～30m侵食されると予測されており、モニタリングを継続し、データ蓄積と不確実性を考慮した対応が必要との報告があった。

また、国の出している海面上昇のシナリオで4°C上昇では砂浜が8～9割消失する可能性が指摘されており、2°C上昇の場合でも6～7割の侵食が予測されることから、モニタリングを行いながらこの会議での意見を基に海岸保全を進めていくことの必要性について意見があった。